

④鳥類

長期モニタリング計画モニタリング項目	海域管理計画 指標種
No. 6 ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査	海鳥類（ケイマフリ、ウミウ、オオセグロカモメ）
No. 22 海ワシ類の越冬個体数の調査	海ワシ類（オオワシ、オジロワシ）
No. ⑧ オジロワシ営巣地における繁殖の成否、及び、巣立ち幼鳥数のモニタリング	
No. ⑨ 全道での海ワシ類の越冬個体数の調査	

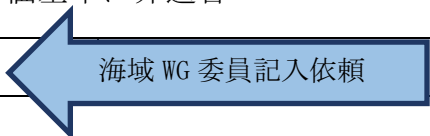

1. 保護管理の考え方

海鳥類：各種調査や情報の収集を行い、鳥獣保護法に基づく適切な保護管理を行う。
 海ワシ類：各種調査や情報の収集を行い、種の保存法（国内希少野生動植物種）、鳥獣保護法、文化財保護法（天然記念物）等に基づく適切な保護管理を行う。

2. 分類評価



(評価者：海域ワーキンググループ)

モニタリング項目	No. 6 ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査	
モニタリング実施主体	環境省釧路自然環境事務所	
対応する評価項目	II. 海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されていること。 III. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。 IV. 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること。 VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。	
モニタリング手法	ウトロ港から知床岬を経て相泊港までの区画ごとの繁殖数をカウント。ケイマフリは、生息が確認されている範囲において海上の個体数をカウント。営巣数の変動についても記録する。	
評価指標	営巣数とコロニー数、特定コロニーにおける急激な変動の有無。	
評価基準	おおよそ登録時の営巣数が維持されていること。	
評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価基準に適合	<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持
	<div style="text-align: right;">  </div> <p>この20年の海鳥4種の繁殖数の変化傾向がわかった。長期的傾向として、これまで同様、ケイマフリはゆるい増加傾向、ウミウとオオセグロカモメは減少傾向にある。直近の4年間ウミネコは繁殖していない。悪化しているか判断できないが、その懸念はある。</p>	
今後の方針	<p>モニタリングを継続する。ウミウ、カモメ類は緩やかな減少傾向にあり、調査継続の必要がある。希少種のケイマフリは緩やかな増加傾向にあるが個体数はまだ少なく、同様に調査継続の必要がある。減少原因が人間による影響なのか分析する必要がある。</p> <div style="text-align: right;">  </div>	

○モニタリングの概要

(1) ケイマフリ

調査・モニタリング名	ケイマフリの生息海域の分布や繁殖地等の生息状況調査
主 な 内 容	ケイマフリの生態把握
対 象 地 域	斜里町（ウトロ港～エエイシレド岬）
調 査 期 間	2018年6月6日～7月29日
調 査 主 体	環境省

表1 記録数の変化

年	2002	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
最大個体数	129	148	129	140	107	98	95	96	142	140	131	176	142	239	237	204
平均個体数	62	88.67	56.22	92.22	64.3	61.89	62.17	61.72	94.53	99.91	104.6	128.1	115.6	159.3	157.4	154.4
標準偏差	38.19	29	27.22	31.29	22.4	24.18	24.94	23.05	36.98	22.98	25.9	33.28	13.92	38.27	40.11	34.63
最小個体数	10	46	17	40	23	25	17	21	25	67	64	79	90	113	104	106
調査回数	14	12	18	9	20	18	12	18	15	11	8	8	9	10	10	10

表出典：環境省「平成30年度知床国立公園における海鳥の分布調査等業務」

2018年は、個体数204羽、平均個体数154羽であり、最大個体数は減少したものの平均個体数は3羽減少しただけであった。

調査・モニタリング名	ケイマフリ営巣分布調査
主 な 内 容	ケイマフリの繁殖状況を把握するために、営巣地域及び営巣数について調査
対 象 地 域	斜里町（プユニ岬～エエイシレド岬）
調 査 期 間	2018年7月2日～2018年7月29日
調 査 主 体	環境省

表2 ケイマフリの営巣数の経年変化

地域名 / 年	2002	2004	2005	2006	2007	2008	2009
プユニ岬～男の涙	10	11	7	25	24	6	25
男の涙～象の鼻	10	3	0	4	1	1	1
象の鼻～岩尾別	1	4	5	8	2	0	1
岩尾別台地 I	0	12	2	4	7	8	4
岩尾別台地 II	0	1	0	2	2	4	3
トークシモイ	3	7	0	3	1	0	1
Total	24	38	14	46	37	19	35

地域名 / 年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
プユニ岬～男の涙	9	23	21	19	25	25	26	18	34
男の涙～象の鼻	3	6	4	4	4	2	0	4	5
象の鼻～岩尾別	1	0	1	0	0	1	3	2	0
岩尾別台地 I	6	5	8	10	12	7	25	15	3
岩尾別台地 II	2	9	11	6	5	10	2	6	4
トークシモイ	0	1	1	0	1	1	1	1	7
Total	21	44	46	39	47	46	57	46	53

表出典：環境省「平成30年度知床国立公園における海鳥の分布調査等業務」

2018年に確認した営巣数は53巣と昨年（2017年）よりも7巣増加した。2018年もプユニ岬が最大の営巣地であったが、岩尾別団地断崖や知床五湖の断崖で減少しているもののトークシモイでは増加しているなど、ケイマフリの営巣地は変遷している。

(2) ウミネコ、オオセグロカモメ、ウミウ

調査・モニタリング名	2018年知床半島における海鳥の営巣状況
主な内容	海鳥を保護していくために必要な基礎データを収集
対象地域	斜里町ウトロ港周辺～羅臼町相泊港
調査主体	ウトロ海域環境保全協議会

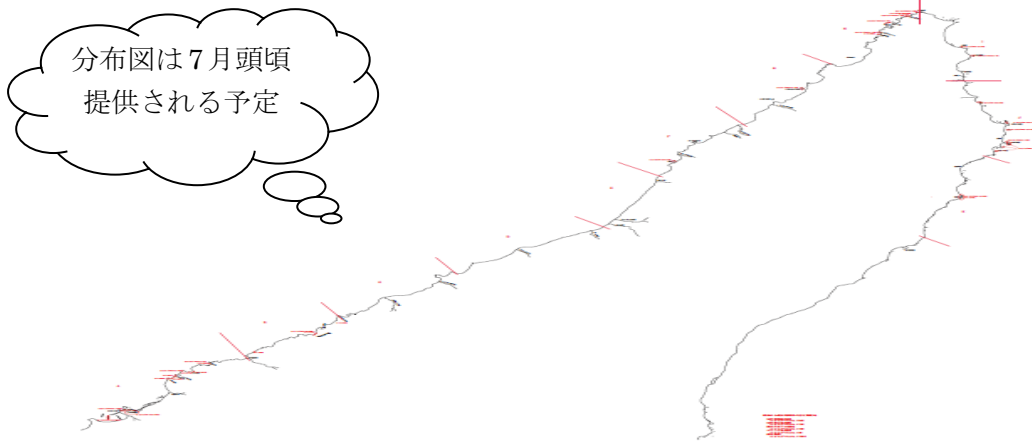


図1 海鳥繁殖分布調査範囲と区域割
「2017年海鳥繁殖分布」ウトロ海域環境保全協議会

・ウミネコ

表3 ウミネコの営巣数の経年変化

ウミネコの経年変化(1997年から2006年)

区域/年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
A	94	280	346	612	772	159	226	122	134	0
B	18	114	54	26	4	0	0	0	27	147
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Total	112	394	400	638	776	159	226	122	161	147

斜里側

ウミネコの経年変化(2007年から2018年)

区域/年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
A	0	6	166	56	0	0	0	12	0	8	0	115
B	3	214	199	282	256	119	0	0	0	0	0	0
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Total	3	220	0	338	256	119	0	12	0	8	0	115

斜里側

(羅臼町側での営巣記録がないため削除した)

表出典: 「2018 海鳥営巣経年」ウトロ海域環境保全協議会

表 4 知床半島全体におけるウミネコの営巣数（1997～2018年）

0は営巣数がなし

年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
営巣数	112	394	400	638	776	159	226	122	161	147	3

年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
営巣数	220	0	338	256	119	0	12	0	8	0	115

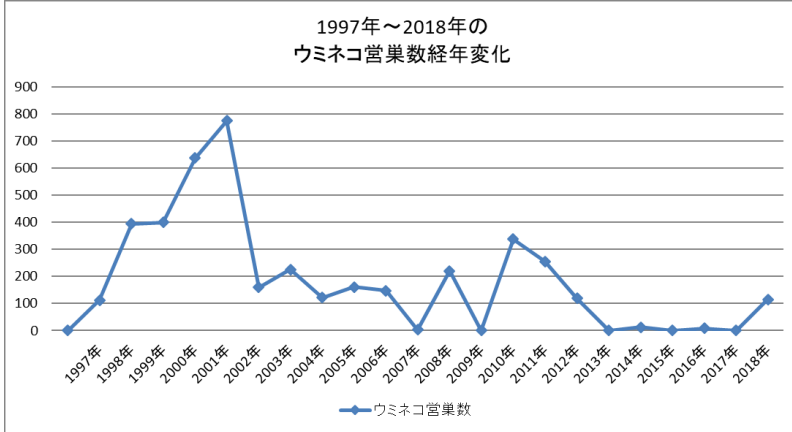


図 2 ウミネコの営巣数の経年変化

表図出典：同上

2001年の776巣をピークに減少し続けており、2013年、2015年及び2017年には営巣の確認ができなかったが、2018年は115巣の営巣を確認できた。

・オオセグロカモメ

表 5 オオセグロカモメの営巣数の経年変化(1997年から2006年)

区域/年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	※2006	
A	599	637	785	569	806	642	806	784	760	1046	斜里側
B	139	238	223	354	421	31	109	95	100	91	
C	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	12	—	0	
F	73	271	355	191	21	20	63	16	—	81	
G	29	68	62	36	0	0	28	20	—	34	
H	80	257	284	297	69	119	165	153	—	163	
Total	920	1471	1709	1447	1317	812	1171	1080	860	1415	
I	—	—	—	—	—	—	105	148	—	88	羅臼側
J	—	—	—	—	—	—	189	303	—	231	
K	—	—	—	—	—	—	23	77	—	63	
知円別											
材木岩										60	
羅臼港											
Total							317	528		382	

表 6 オオセグロカモメの営巣数の経年変化(2007年から2018年)

区域/年	2007	2008	2009	※2010	2011	2012	2013	2014	※2015	2016	2017	2018	
A	745	547	604	560	527	412	196	161	291	308	259	398	斜里側
B	63	15	50	46	0	18	0	0	0	3	2	7	
C	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
D	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
F	17	38	38	58	30	16	39	6	34	0	4	8	
G	10	4	9	4	10	4	7	10	15	8	2	6	
H	154	188	115	128	180	96	49	115	126	79	97	75	
Total	1016	792	816	796	747	546	291	292	466	398	364	494	
I	102	69	91	73	78	45	2	4	46	8	9	23	羅臼側
J	238	239	220	219	194	164	11	46	66	33	51	54	
K	102	54	71	127	134	66	33	69	45	31	34	15	
知円別									39	68			
材木岩									55	28			
羅臼港									161	207			
Total	442	341	382	419	406	275	46	119	412	375	94	92	

0は営巣数がなし -は未調査

※2006年と2010年そして2015年はモニタリングサイト1000と知床海鳥研究会の共同調査

表出典：「2018海鳥営巣経年」ウトロ海域環境保全協議会

表 7 オオセグロカモメのウトロ市街地から羅臼相泊までの営巣数(2006～2018年)

年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
営巣数	1797	1458	1154	1198	1215	1153	821	337	411	623	470	458	586

表出典：「2018海鳥営巣経年」ウトロ海域環境保全協議会

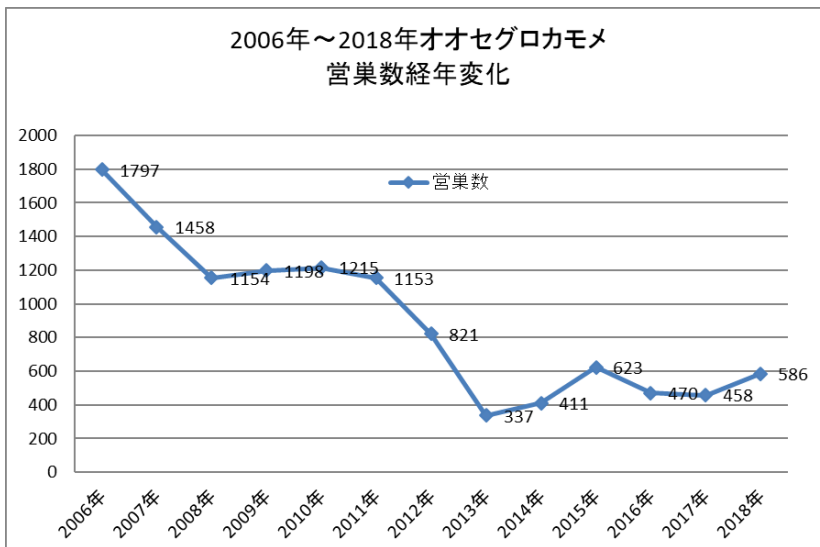


図3 オオセグロカモメの営巣数の経年変化
 図出典：「2018 海鳥営巣経年」
 ウトロ海域環境保全協議会

2006 年は 1797 巣が確認されたが、年によっては上下するものの全体的な流れとしては減少している。2014 年から増加の兆しが見えたが、2016 年には減少し、2018 年は 586 巣となった。

・ウミウ

表8 ウミウの営巣数の経年変化（1997年から2018年）

区域/年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	※2006		
A	270	194	200	214	157	63	231	97	218	304	袋里側	
B	140	159	162	209	0	114	229	137	200	206		
C	0	0	0	0	0	80	0	0	—	0		
D	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0		
E	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0		
F	44	66	49	67	96	0	14	15	—	14		
G	2	20	1	23	46	0	0	63	—	33		
H	106	163	106	107	79	48	64	64	—	144		
Total	562	602	518	620	378	305	538	376	418	701		
I	—	—	—	—	—	—	—	54	—	0	羅臼側	
J	—	—	—	—	—	—	42	37	—	36		
K	—	—	—	—	—	—	0	0	—	10		
材木岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
Total	—	—	—	—	—	—	42	91	—	46		
知床半島全体												
Total	—	—	—	—	—	—	580	467	—	747		
2007	2008	2009	※2010	2011	2012	2013	2014	※2015	2016	2017	2018	袋里側
214	338	559	302	259	298	92	90	291	153	70	59	
127	113	137	157	76	75	19	161	145	62	25	133	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
7	21	14	19	0	36	0	10	10	0	0	0	
0	9	21	0	0	9	0	9	0	0	0	0	
51	62	24	91	51	79	44	37	78	88	78	34	
399	543	755	569	386	497	155	307	524	303	173	226	
0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	羅臼側
41	62	44	54	46	0	0	7	0	0	0	0	
5	5	7	19	7	36	10	0	14	0	14	25	
46	85	51	73	53	36	10	7	32	12	14	25	
445	628	806	642	439	533	165	314	556	315	187	251	

0は営巣数がなし -は未調査

※2006年と2010年そして2015年はモニタリングサイト1000と知床海鳥研究会の共同調査

表出典：「2018 海鳥営巣経年」ウトロ海域環境保全協議会

表 10 知床半島全体におけるウミウの営巣数（2006～2018年）

年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
営巣数	747	445	628	806	642	439	533	165	314	556	315	187	251

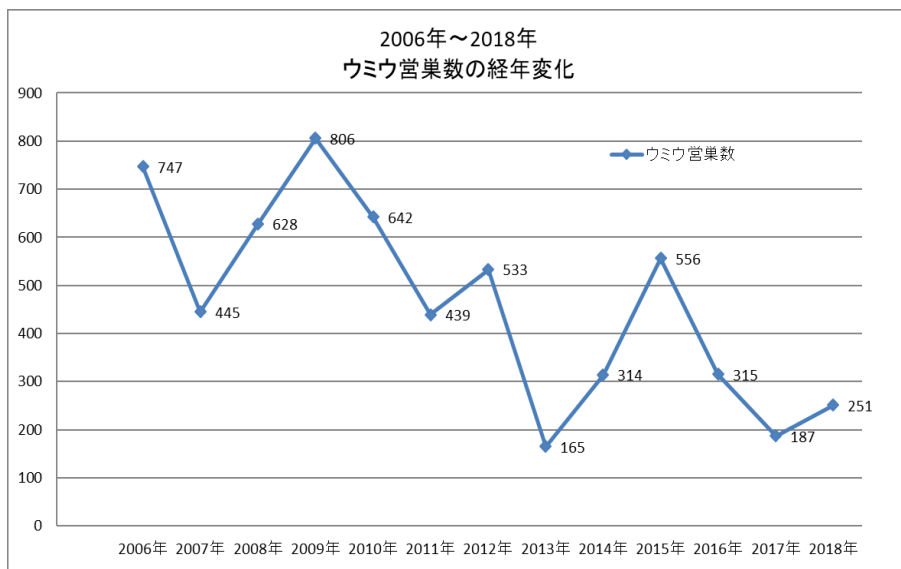




図 4 ウミウの営巣数の経年変化
図表出典：「2018 海鳥営巣経年」
ウトロ海域環境保全協議会

2018年のウミウの営巣数は知床半島全体で 251 巣、斜里町側 226 巣、羅臼側 25 巣であった。

モニタリング項目	No. 22 海ワシ類の越冬個体数の調査	
モニタリング実施主体	環境省釧路自然環境事務所	
対応する評価項目	II. 海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されていること。	
モニタリング手法	知床半島沿岸部の道路沿い、流氷上、河川沿いのワシ類の種類と個体数、成鳥・幼鳥の別などを記録する。	
評価指標	海ワシ類の越冬個体数。	
評価基準	おおよそ登録時の生息状況が維持されていること。	
評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価基準に適合	<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持
	 <p>オジロワシの繁殖数と成績は平年並み。長期的傾向は認められない。 海ワシ類飛来数も平年並み。</p>	
今後の方針	<p>希少種であり継続の必要がある。知床繁殖個体群の役割を明らかにすることが望ましい。</p> 	

○モニタリングの概要

調査・モニタリング名	海ワシ類飛来状況調査巡視記録
調査主体	環境省
調査手法	11月から4月にかけて、斜里町側では知布泊～岩尾別の約28km、羅臼町側では湯ノ沢～羅臼川河口及び於尋麻布漁港～相泊漁港の約35kmのそれぞれの調査区間において、道路沿いや流氷上、河川沿いのオオワシ・オジロワシの個体数を計数した。

表1 海ワシ類飛来状況調査巡視記録（斜里町側）

NO.	調査年月日	確認個体数			
		オオワシ	オジロワシ	不明	合計
1	2018/11/7	1	7	0	8
2	2018/11/12	1	6	0	7
3	2018/11/21	11	10	0	21
4	2018/11/28	35	5	0	40
5	2018/12/5	26	10	0	36
6	2018/12/12	26	23	0	49
7	2018/12/19	35	38	0	73
8	2018/12/26	17	18	0	35
9	2019/1/9	11	12	3	26
10	2019/1/16	14	11	0	25
11	2019/1/23	19	13	1	33
12	2019/1/30	91	35	7	133
13	2019/2/6	158	29	0	187
14	2019/2/13	57	27	8	92
15	2019/2/20	132	37	3	172
16	2019/2/27	30	20	10	60
17	2019/3/7	14	10	3	27
18	2019/3/14	30	26	5	61
19	2019/3/22	16	14	1	31
20	2019/3/28	6	9	3	18
21	2019/4/3	1	5	1	7
計		731	365	45	1141

表2 海ワシ類飛来状況調査巡視記録（羅臼町側）

NO.	調査年月日	確認個体数			
		オオワシ	オジロワシ	不明	合計
1	2018/11/7	0	0	0	0
2	2018/11/13	0	2	0	2
3	2018/11/21	2	7	0	9
4	2018/11/28	0	6	0	6
5	2018/12/5	1	4	1	6
6	2018/12/12	8	21	3	32
7	2018/12/19	7	13	1	21
8	2018/12/26	8	12	0	20
9	2019/1/9	12	7	1	20
10	2019/1/16	33	42	2	77
11	2019/1/23	37	20	0	57
12	2019/1/30	78	58	8	144
13	2019/2/6	34	36	30	100
14	2019/2/13	57	33	2	92
15	2019/2/20	2	9	1	12
16	2019/2/26	30	27	2	59
17	2019/3/7	11	8	1	20
18	2019/3/14	32	34	6	72
19	2019/3/22	23	16	3	42
20	2019/3/28	3	22	0	25
21	2019/4/3	0	8	0	8
計		378	385	61	824

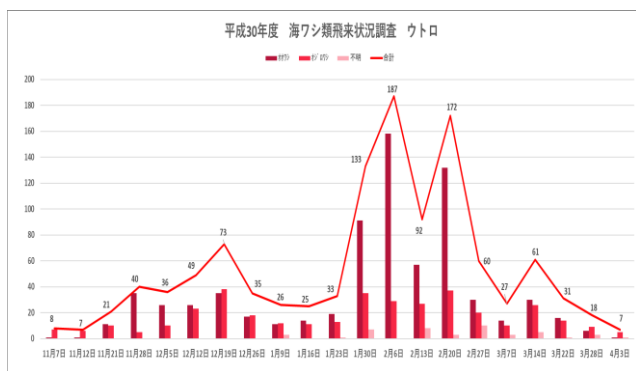


図1 海ワシ類飛来状況調査巡視記録（斜里町側）

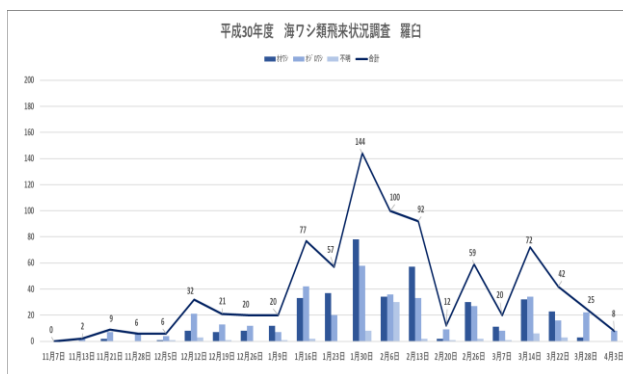




図2 海ワシ類飛来状況調査巡視記録（羅臼町側）

出典：環境省「海ワシ類飛来状況調査巡視記録」

(評価者：海域ワーキンググループ)

モニタリング項目	No. ⑧ オジロワシ営巣地における繁殖の成否、及び、巣立ち幼鳥数のモニタリング		
モニタリング実施主体	オジロワシモニタリング調査グループ		
対応する評価項目	II. 海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されていること。 III. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。		
モニタリング手法	オジロワシ生息地において、つがいの生息状況、繁殖活動の有無、繁殖の成否、孵化・巣立ち幼鳥数等を調査。		
評価指標	つがい数、繁殖成功率、生産力（つがい当たり巣立ち幼鳥数）		
評価基準	おおよそ登録時のつがい数、繁殖成功率、生産力が維持されていること。		
評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
	<p>オジロワシの繁殖数と成績は平年並み。長期的傾向は認められない。 海ワシ類飛来数も平年並み。</p> 		
今後の方針	<p>希少種であり継続の必要がある。知床繁殖個体群の役割を明らかにすることが望ましい。</p> 		

○モニタリングの概要

2020年1月頃更新予定

調査・モニタリング名	オジロワシ繁殖モニタリング調査
主 な 内 容	オジロワシの繁殖状況に関する調査
対 象 地 域	斜里町、羅臼町、標津町北部
頻 度	通年
調 査 主 体	オジロワシモニタリング調査グループ（知床財団、知床博物館、羅臼町、他）
調 査 結 果 概 要	知床半島で繁殖する番数は2010年まで漸増していたが、2011年以降横ばい傾向にある。2013年調査で大きく低下した繁殖成功率・生産力は、2011年までの水準に回復した。このことから、2013年の繁殖成績悪化は抱卵期の荒天による一時的なものと考えられた。

表1 2018年オジロワシ繁殖モニタリング調査結果

調査年	推定生息 つがい数	成功失敗確 認つがい数	繁殖成功 つがい数	繁殖失敗 つがい数	繁殖成功率 (%)	巣立幼鳥数	生産力	成功つがい 生産力	
2018年	斜里側	16	5	4	1	80.0	6	1.20	1.50
	羅臼側	19	5	4	1	80.0	7	1.40	1.75
	計	35	10	8	2	80.0	13	1.30	1.63

表2 2017年までのモニタリング調査結果

調査年	推定生息 つがい数	成功失敗確 認つがい数	繁殖成功 つがい数	繁殖失敗 つがい数	繁殖成功率 (%)	巣立幼鳥数	生産力	成功つがい 生産力	
2017年	斜里側	16	10	6	4	60.0	7	0.70	1.17
	羅臼側	18	6	5	1	83.3	6	1.00	1.20
	計	34	16	11	5	68.8	13	0.81	1.18
2016年	斜里側	16	5	4	1	80.0	5	1.00	1.25
	羅臼側	18	5	4	1	80.0	5	1.00	1.25
	計	34	10	8	2	80.0	10	1.00	1.25
2015年	斜里側	15	8	4	4	50.0	6	0.75	1.50
	羅臼側	18	6	4	2	66.7	4	0.67	1.00
	計	33	14	8	6	57.1	10	0.71	1.25
2014年	斜里側	15	9	5	4	55.6	6	0.67	1.20
	羅臼側	17	6	5	1	83.3	5	0.83	1.00
	計	32	15	10	5	66.7	11	0.73	1.10
2013年	斜里側	14	7	2	5	28.6	2	0.29	1.00
	羅臼側	17	5	2	3	40.0	2	0.40	1.00
	計	31	12	4	8	33.3	4	0.33	1.00
2012年	斜里側	13	7	5	2	71.4	5	0.71	1.00
	羅臼側	19	6	3	3	50.0	4	0.67	1.33
	計	32	13	8	5	61.5	9	0.69	1.13
2011年	斜里側	12	7	5	2	71.4	7	1.00	1.40
	羅臼側	19	10	7	3	70.0	7	0.70	1.00
	計	31	17	12	5	70.6	14	0.82	1.17
2010年	斜里側	11	5	3	2	60.0	3	0.60	1.00
	羅臼側	17	6	5	1	83.3	7	1.17	1.40
	計	28	11	8	3	72.7	10	0.91	1.25
2009年	斜里側	11	7	5	2	71.4	6	0.86	1.20
	羅臼側	16	10	7	3	70.0	9	0.90	1.29
	計	27	17	12	5	70.6	15	0.88	1.25
2008年	斜里側	11	7	4	3	57.1	5	0.71	1.25
	羅臼側	15	6	6	0	100.0	6	1.00	1.00
	計	26	13	10	3	76.9	11	0.85	1.10
2007年	斜里側	11	7	5	2	71.4	6	0.86	1.20
	羅臼側	14	5	4	1	80.0	4	0.80	1.00
	計	25	12	9	3	75.0	10	0.83	1.11
2006年	斜里側	11	5	5	0	100.0	6	1.20	1.20
	羅臼側	12	3	2	1	66.7	3	1.00	1.50
	計	23	8	7	1	87.5	9	1.13	1.29
2005年	斜里側	11	7	4	3	57.1	4	0.57	1.00
	羅臼側	12	5	2	3	40.0	2	0.40	1.00
	計	23	12	6	6	50.0	6	0.50	1.00
2004年	斜里側	10	5	3	2	60.0	4	0.80	1.33
	羅臼側	11	6	3	3	50.0	4	0.67	1.33
	計	21	11	6	5	54.5	8	0.73	1.33

表出典：オジロワシモニタリング調査グループ

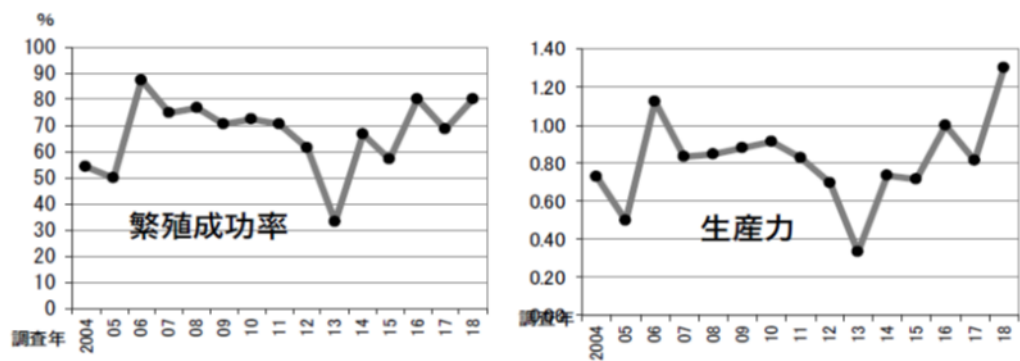


図1 繁殖成功率及び生産力の推移

図出典：オジロワシモニタリング調査グループ

(評価者：海域ワーキンググループ)

モニタリング項目	No. ⑨ 全道での海ワシ類の越冬個体数の調査		
モニタリング実施主体	オジロワシ・オオワシ合同調査グループ		
対応する評価項目	Ⅱ. 海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されていること。 Ⅶ. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。		
モニタリング手法	各越冬地におけるオオワシとオジロワシの一斉カウント調査。		
評価指標	海ワシ類の越冬環境収容力		
評価基準	参考資料（基準なし）		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
	/		
今後の方針	/		

○モニタリングの概要

9月頃更新予定

調査・モニタリング名	オオワシ・オジロワシ一斉調査
主な内容	北海道及び本州北部の渡来地、全192調査区において、オオワシ・オジロワシ個体数の一斉カウントを実施。
頻度	年1回、2月下旬に実施（2018年2月11日実施）
調査主体	オジロワシ・オオワシ合同調査グループ
調査結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・知床半島個体数は379羽（オオワシ222羽、オジロワシ157羽）。 ・北海道内個体数に占める知床半島個体数の割合は、オオワシ26.7%、オジロワシ20.7%、2種合計では23.8%となった。

表1 ワシ類個体数 2006-2018年結果

種別		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	
全記録個体数	オオワシ	1703	1857	1454	1279	974	1492	936	1103	968	1326	1016	916	840	
	オジロワシ	774	900	711	784	651	943	973	810	777	1025	916	709	778	
	ワシ類合計	2477	2757	2165	2063	1625	2435	1909	1913	1745	2351	1932	1625	1618	
内訳	北海道個体数	オオワシ	1,686	1,845	1,430	1,253	955	1,473	925	1,093	959	1,318	1,007	910	831
		オジロワシ	755	882	678	763	640	928	957	800	755	1,007	898	682	760
		ワシ類合計	2,441	2,727	2,108	2,016	1,595	2,401	1,882	1,893	1,714	2,325	1,905	1,592	1,591
	知床個体数	オオワシ	507	268	271	432	320	544	151	318	127	243	211	88	222
		オジロワシ	218	144	95	163	143	286	279	171	120	228	180	54	157
		ワシ類合計	725	412	366	595	463	830	430	489	247	471	391	142	379

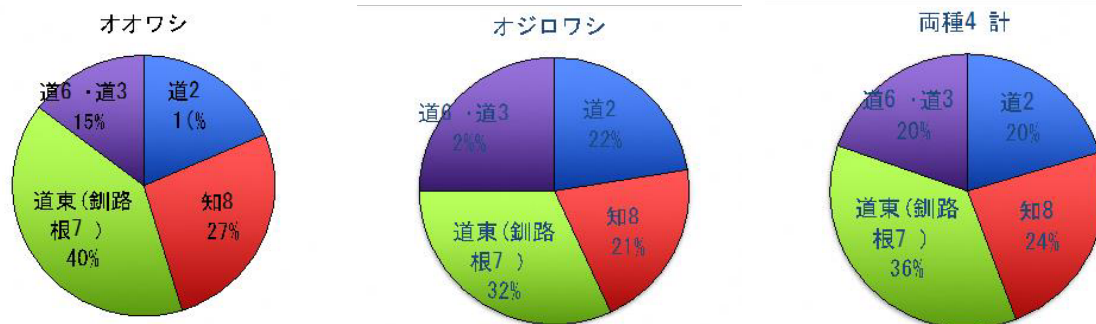


図1 ブロック別割合（2018年）



図2 2006~2018年の一斉調査結果



図3 北海道内ワシ類合計個体数における知床の割合

(オオワシ・オジロワシ合計の場合)

表図出典：オジロワシ・オオワシ合同調査グループ「オオワシ・オジロワシ一斉調査結果」